

第19号

坂井市農・地・水's - 愛

～ 集落委員会 共同活動紹介 広報誌 ～

小黒農地水環境を守る会では、地域シンボルとなる文字デザイン入り防草シートを地元企業と協力し制作・設置しました。「未来へ、みんなでつなごう 地域の農地」は、ジャガード織、緑下地に黒文字で耐用年数10年、大きな礎となるメッセージです。近年の共同活動には、多くの企業から斬新な提案を頂きます。新しい時代への提案とそれを受け入れる広い志と挑戦の共同活動に心からお礼申し上げます。



表紙テーマ：地域シンボル！みんなでつなごう 地域の農地。（2024/9/15 丸岡町小黒で撮影）

頁	内容（令和6年度テーマ：集落活動の後継者）
p 1～p 2	油屋区活動組織（三国：三国木部地区）活動紹介
p 3～p 4	千歩寺地域資源保全会（春江：西部地区）活動紹介
p 5～p 6	SHINBOアグリ保全会（坂井：坂井木部地区）活動紹介
p 7～p 8	八丁区環境保全部会（丸岡：磯部地区）活動紹介
p 9～p 12	シリーズ「応援人・夢追い人」のご紹介です。
p 13～p 14	集落委員会「この事業を通じて」の振り返り

油屋区活動組織

代表 古道 孝佳

1. 集落委員会の概要

当地区は、三国町の南部に位置し、坂井平野の中心である坂井町に近い水田単作地域であります。地区の特徴としまして、水田地帯を交通量の非常に多い県道三国丸岡線が横断し、さらに、広域農道が縦断していることから、テクノポート関係のトラック等の交通も多いなど、交通の要所であるので、**空き缶等ゴミの投げ捨て等が多い地域**でもありました。

景観・環境等の維持のため、農地水の活動には当初の平成19年から取り組んでおります。

設立	平成19年
構成	油屋区 12戸 農業者11名（油屋水稻生産組合 組合員11名）
役員	代表1名（会計等兼務） 事務局1名
対象区域	水田18ha 広域農道排水路1Km 農道4Km 用水はパイプライン、排水は地下管水路
活動内容	空き缶拾い 草刈り 水路泥上げ 機能診断（施設点検） 防草シート敷設

2. 農家・農地の現状

農家は兼業農家が多く、全農家が農事組合法人油屋水稻生産組合に加入しており、50年以上共同作業で水稻、転作等を行ってきました。

水田については、土地改良事業で用水路をパイプライン化する時に、**排水路を地下管水路にしたため、水田の水漏れがなくなり、管理が非常に楽**になりました。

3. 後継者の育成について

構成員の年齢を考察すると、今後10年間位は農地水の活動や生産組合を維持できると判断できますが、**区の存続のため、後継する者を、家に帰す必要**があります。また、**後継者に農業や機械作業に必要なスキル（大特、作業免許の取得等）を授けるプログラムも必要**になります。こうした取り組みを今後、区や組合で行っていく必要があります。

4. 活動状況

(1) 空き缶拾い



(2) 泥上げ



(3) 点検



(4) 防草シート敷設



5. 将来へ向けて

今年、農業・食料・農村基本法の改正が行われましたが、その中に集落を維持するために必要な戸数は最低9戸と記載されていました。限界集落にならないよう、なんとか集落を維持できるよう努力していく必要があります。

しかしながら、当区には次のような便利さもあります。

区にガソリンスタンドがあり、近くにセブン・イレブン、ゲンキー、しまむら、コメリ等があり、また、マクドナルド、秋吉等があり、**車で少し走れば、様々な買物ができるので、生活するうえで大変恵まれている**と感じています。

また、**区道の除雪についても、区民（トラクターバケット）で行うなど、区内でできることは、区でする体制を今後も維持していけるよう、後継者を確保・育成**していきたいと考えています。

千歩寺地域資源保全会

代表 坪田 信次

1 集落委員会の概要

当地区は、えちぜん鉄道西春江ハートピア駅と西長田ゆりの里駅間を東西に水田約 38ha 西側には春江カントリーがあり籾及び麦の搬入はとても便利です。

47 戸の世帯で農家戸数は 30 戸、耕作農家は入り作者 4 名を含め 12 名です。

設立 平成 26 年
構成委員 農業者 13 名/非農業者 60 名
役員 代表 1 名 副代表 1 名
事務局 3 名(会計 1 名含む)

対象地区 水田 38ha 水路 9.7km 農道 7.7km

活動内容 排水路泥上げ 空き缶ゴミ拾い 防草シート張り 機能診断(施設点検)
一斉草刈り 給水栓点検(漏れ修復) 異常気象時見回り



第 1 回目の空き缶ゴミ拾い風景

2 集落委員会活動で困っているところ

当集落は土地改良区画整理事業から 50 年以上経過し又近年は除草剤散布の影響も含め排水側農道の崩落が多数見られ漏水も発生している状態で、今後区内で検討し土地改良区と相談しながら改善したいと思っています。

農地持ち主は 30 戸ですが若い世帯が地区外に住み、高齢者が増え泥上げ作業者は近年減少し 18 名草刈り作業は 11 名と少なく、水田、水路、農道を 10 年 20 年後維持管理できているか心配です。

3 後継者育成について、工夫しているところ

これといった工夫はしていないのですが、当地域の区長、農家組合長、副農家組合長に工事前後の立合をお願いし農地水給付金の使用等の利点及び理解をしていただきます。

農地水活動状況について区総会、社会奉仕作業時に報告しています。

役員がどのような仕事をしているか活動後随時説明するよう心掛けています。

4 集落委員会の活動状況

水路の泥上げ(3月)



空き缶ゴミ拾い(3月)



機能診断(11月～3月)



農道補修検査



給水栓点検補修(3月)



防草シート張り



SHINBOアグリ保全会

代表 廣部 義治

1 集落委員会の概要

木部新保区は、坂井町木部地区の西端の九頭竜川沿いに位置し、**多くの水田と大沢の鬼退治の祈禱所に由来する紀倍神社**や、室町時代後期に鳥居が作られたとされる田上神社など歴史的な施設を有する地区となっています。

設立	平成21年
所在地	坂井市坂井町木部新保
農地面積	9,607a (アール)
構成員	163名 (農家120 非農家43) 区民全戸
構成団体	青空会、みのる会、婦人会、小学生、中学生、壮年会
役員	区長、副区長、アグリ保全委員4名、 アグリ保全相談役3名、農家組合長、水路委員4名
例年の事業	総出人足 (区民全戸による泥上げと草刈り)、 空き缶拾い (各構成団体)、花壇づくり (青空会)、 水路点検 (農家組合長と水路委員)、防草シート敷設、 水路や農道の補修、暗渠部清掃作業及び汚泥運搬

2 集落委員会活動で困っているところ

少子・高齢化により、**若い世代の担い手が不足し**、各種活動の参加人数が減少傾向にあります。また、施設の老朽化に伴い、修繕が必要な箇所が増えてきており、**施設の維持管理が今後の課題**となっています。

3 後継者育成について、工夫しているところ

持続可能な活動をしていくため、区民の幅広い年代の方々に活動への参加をお願いしています。事務局を担当する役員も**定期的に交代**していますが、事務作業を効率化するため、各種様式や活動内容を**電子データで記録**すると共に、後任者がスムーズに活動を引き継げるように、一部の任期を重複させ、**OJT (オン・ザ・ジョブ・トレーニング)**の形をとることで、初めて担当する方でも、困ることがないように工夫しています。

4 集落委員会の活動状況

総出人足（7月、3月）



空き缶拾い（9～11月、3月）



花壇づくり（春、夏）



防草シート敷設



農道の補修



5 この事業を通じて

区民および各種構成団体の力を借りながら持続可能な地域環境の保全に取り組んで行くとともに、活動を通じてコミュニケーションを図ることで近年、多発している自然災害の発生時にも、みんなで支え合える地域にしていきたいと考えています。

八丁区環境保全部会

代表 高橋 英一

1 集落委員会の概要

当地区は丸岡城下の南方、九頭竜川に近い所に位置し、かつては「陸の孤島」ともいわれた**極小集落（5戸）**でした。兼定島村出作として、**兼定島（松岡町）より8町の距離**から名付けられ、**田畑も8町歩**あったといわれています。ところが1973年の福井大橋（福井バイパス）開通以降、周辺農地の宅地化（丸岡町新九頭竜）が進み、福井市内へのマイカーによる通勤買物等に利便性の良い環境へと激変しています。

- 設立 平成23年（2011年）
- 構成員 12名
- 役員 代表1名／副代表1名
- 交付金対象農用地 田324a
- 対象施設 水路1.7km／農道0.4km
- 組織運営 **共同活動は小さく！（スモールイズビューティフル！）**
機能点検⇒補修／泥上げ・草刈り・ごみ拾い／研修参加



八丁区全景



2 集落委員会活動で困っているところ



毎年、梅雨時期になると想定外の増水により、**水路の終端部分（磯部川に接続）では水が溢れ出し**、水路法面の侵食が進んでいます。今年度、水路のアーム底打ちコンクリートと陥没箇所盛土の工事（長寿命化）が施工されます。施工後も、引き続き水路終端部分の機能点検を行っていく必要があります。

3 後継者育成について、工夫しているところ

まずは「草刈り（7月第3日曜）」と「泥上げ（3月第3日曜）」、活動は大きくしない。目標は、**共同活動は小さく！（スモールイズビューティフル！）**

4 集落委員会の活動状況

一斉泥上げ (3月第3日曜)



一斉泥上げ (3月第3日曜)



一斉泥上げ (3月第3日曜)



一斉ごみ拾い (3月第3日曜)



一斉草刈り (7月第3日曜)



農道草刈り (2019年舗装/長寿命化)



5 この事業を通じて・・・



当地区の「**小さな共同活動**」は二つ。一つが集落委員会活動です。そしてもう一つは、神社祭りの準備（のぼり立てとのぼり倒し）です。のぼり用の柱として、長さ11mのヒノキ丸太を共同活動により設営撤収しています。この二つの小さな共同活動を繰り返すことが、**将来に向けての動機付け（心のベクトル）**にもなっています。

忘 援 人

有害鳥獣害から 農産物と地域を守る 活動を目指して

～ 坂井市有害鳥獣害協議会 会長 高屋 幸一郎 氏 ～



令和6年9月26日撮影

坂井市有害鳥獣害連絡協議会は、平成22年に丸岡町里山地域周辺1.5kmの固定防護柵を設置するため、市内一円をエリアとして設立された協議会です。当時から会長を勤め、令和5年度には広域協定の協力団体となり、有害鳥獣害対策の指導や助言を頂き、地域でもその活動の先頭に立っています。農産物を守るとの考えから、農地周辺の里山の草刈りと箱わな・柵の管理を行っています。

近年は、くまの出没や豚コレラの落ち着きで、イノシシ生息数も増えているといえます。

シカも数年前から目撃され、里山の食害と共に、更地となった里山は法面崩壊の危険性があるといえます。熱心でひたむきな活動と獣害対策の第一人者として実態に即した指導・助言は地域から厚い信頼を得ています。



困難ですが、農産物と地域を守るひたむきな共同活動に心からお礼申し上げます。

応援人

ホタル ビオトープ再生プロジェクト！原風景再生！

～ 三国木部ホタル研究所 所長 森岡 正己 氏 ～



三国木部ホタル研究所は、令和3年4月に「ホタルをキーワードとした原風景の取戻しと自然環境保全の意識づけ」を目的に設立され、令和5年からは広域協定の協力団体としてお力添えを頂いております。初代所長に就任し、現在は、小学校や環境団体からの依頼を受け、ホタル育成や自然環境保全をテーマとした講演等でご活躍されています。

プロジェクトは、地域交流拡大や活性化に繋がり、**ホタルが舞い飛ぶ風景に子供たちは歓声を上げ、他の親子もビオトープを訪れたと聞きます。**ホタル再生は、原風景取戻しと自然環境保全への意識の始まりといえます。

道のりは半ばとありますが、ホタル再生に掛ける並々ならぬ思いは、地域からの期待と感謝、そして、好意ある賛同を得ています。



ホタル再生プロジェクト！自然環境保全を目指す最高の熱意に敬意を表します。

夢 進 い 人

うるおいのある農村景観形成 コスモス の取り組み

～ 東中野地区村づくり委員会 代議員 酒井智吉 氏 他 ～



令和6年10月10日撮影

坂井町東中野地区村づくり委員会は、麦後70aの水田に、多面的機能支払交付金を活用し、景観形成としてコスモスを栽培し、本年で18年目を迎えたといえます。工夫していることは、発芽揃えを良くするため雨前播種と早めの除草とのことですが、今年度は猛暑が続いたせい、開花は少し遅れているとのことです。

コスモス管理の中心は、集落の青壮年です。コスモス「いこいの広場」には、地区内の方や親子連れ、また、近隣の保育園や介護施設は、来訪が恒例行事となり楽しみにしていると聞きます。今年度は、親子連れや高齢者が安全に楽しめるよう、車いすでも入れるように昇降路の設置をしました。コスモスといこいの広場は、やりがいと明るさを届けているといえます。



多くの方々へ、継続し楽しみと明るさを届ける、共同活動に心からお礼申し上げます。

夢 進 い 人

農地・水と環境を守る活動 を文字デザインで宣言

～ 石仏境為環境保全会 代議員 東 光信 氏 他 ～



春江町石仏（石仏境為環境保全会）は、春江東小学校近くの排水路法面に、ジャガード織で緑下地、白文字デザインの防草シートを、見通しの良い場所に設置しました。

デザインは、「わたしたちは 農地・水と環境を守る活動をしています 石仏境為環境保全会」とし、農地と水と環境を守る活動を公にしました。

近年、小学校やコミセンが新たに置かれ、新九頭竜橋の開通と共に、福井市への利便性も増し、市内で有数の人口増加地域となる一方で、混住化等を要因とし農村や農業用施設への理解が難しくなっているといえます。農業と農村を守る活動を地域全体で行うには、多面的機能の景観形成や排水・農道の都市機能活用など恩恵に対し丁寧で賛同を得る説明が必要と考えます。



広く見える形の農地と水と環境を守る共同活動に心からお礼申し上げます。

坂井市 農・地・水's-愛(広報誌)

“この事業を通じて” を改めて再掲しました。

- ・農用地・用排水路の環境の保全と質的向上を図る活動が進められ、コミュニケーションも取れてきたと思います。
- ・この事業を活用した区民皆の参加活動を通じて、地域内の環境や農地の保全と、用排水路や農道等の農業施設を、より良く改善することが出来たのではと思っています。
- ・共同の取り組みで、住み続けられる地域づくりができればと思っています。
- ・花壇などについても子供を含めた集落の住民自らが景観形成に参加することで、自分達の集落を自慢できるような美しい農村環境の形成を目指すこととしています。
- ・今後の取り組みについて、地域住民が一体となった資源保全活動を行うために、全団体から役員を選任してもらい中長期計画を明確にして、どうすれば農地水環境を守れるか協議をし、集落全体で取り組みたいと考えています。



- ・地域ぐるみによる計画的・効率的な活動等により、農地、農業用施設の保全や農村環境の保全を目指すと共に、素晴らしい田園風景の保持に寄与して行きたいと考えています。

- ・確かに留守の時もあるなど時間はかかりますが、会って話も出来るためコミュニケーションも取れる良い機会だと考えています。
- ・顔を合わせる機会が少なくなった今、この事業をこれからも楽しく取り組みたいと思います。
- ・若者から高齢者まで力を合わせて地域の農業や農地を考える機会になればと思います。
- ・この事業への加入は大きかったと思います。区民全体にエコの意識を定着させるとともに、区内の農業施設等の改善、ひいては失われた美しい農村環境の回復につなげていけるようにしたい。
- ・この事業に長年参加し意識も定着してきており 区民一同の顔みせの場として継続していきたいと考えています。

- ・共同活動を実施してきたことで、住民に生活環境を守る意識が高まってきたと感じています。子どもたちを交えての農地への植栽などにより、人々が足を止めて景観を楽しめる魅力ある地域づくりを進めたいと考えています。
- ・出来れば、以前の様に当地区内に蛍が生息し、防護柵などで安全を確保した、憩いの場所が出来たらと願っています。
- ・今後も農地保全と合わせ、美しい村になるよう取り組んでいきたいと思っています。
- ・先祖が苦難を乗り越え長年にわたって守り続けてこられたこの大切な農地・水を、この事業を通じて守り継承していきたいと考えています。
- ・活動を通じて集落内の結束を強く地域の資源を守る活動を継続していこうと考えています。
- ・活動を通じ、世代の違った区民が、一緒に活動をすることで、日頃、話が出来なかった人とのコミュニケーションも図られ、この恵まれた環境を、次の世代に受け継がれていくことを望んでいます。
- ・地域のコミュニティとして、大変有意義な事業だと思っています。この農村の風景は、農家だけでなく区民みんなのものだという観点から、今後もこの事業を進めてまいります。
- ・ひまわりの植栽を通し当区のイメージアップを図り、若者や観光客が集まるような場所になれば大変有意義な事業になると考えます。
- ・この事業を通じ、集落の皆さんが集まり、作業する機会が増えたことにより、益々地域のつながりが強くなったと感じております。



・ ・ “この事業を通じて” の 感想有難うございます。 ・ ・

集落委員会から頂きました、「この事業を通じて」を再掲させていただきました。

集落委員会は、役員・後継者不足をはじめ多くの課題を抱えています。

しかし、共同活動を通じて、失われつつあるものの取り戻しが始まったように感じられます。

コミュニティの醸成、地域力の向上、次世代の育成の取り組み 又、何が重要か、守ること・繋ぐことの困難性とその価値、安らぎや安心感・満足感、力を合わせ協力することの意味やチャレンジなど、多くの目指したい姿の寄稿がされています。共同活動の価値を改めて実感いたします。



総勢13名でシンボル文字入り防草シート設置 (2024/9/15 小黒農地水環境を守る会)



挑戦！ みんなでつなごう！



50m×1.7m！ ジャガード織で制作・設置。

日本初！ジャガード織の文字デザイン入り防草シート。

「未来へ、みんなでつなごう 地域の農地 小黒農地水環境を守る会」。シンボルはひととき映えます。

グリーン下地に、黒文字。長さ50m×幅1.7m。「坂井ほや丸」や「ゆり」をデザインしてはの意見も。

集落で考案したメッセージは、共同活動と地域の礎・シンボルになると思われます。

集落総出での新たな取り組み。集落委員会の挑戦の共同活動に心からお礼申し上げます。

発刊：坂井市農地水広域協定（坂井市役所内）

坂井市坂井町下新庄1-1

☎0776-67-2351